

# 明るい漁村作りについて

筒石漁業協同組合青年部

副部長 三浦 信一

## 1. 地域及び漁業の概要

私達が所属する筒石漁業協同組合は、新潟県の南西部に位置し、筒石漁港（第2種漁港）を根拠地とする上越地方でも有数の組合である。

組合員は、96名（正組合員73名、准組合員23名）で、ほとんどが収入を漁業に依存する専業漁家によって組織されている。

平成8年末における当組合所属の漁船は、87隻（無動力3隻、0～3トン62隻、3～5トン2隻、5～10トン20隻）で主な漁業種類は、小型機船底びき網漁業、刺網漁業、はえなわ漁業及び吾智網漁業である。

また、平成8年度の主な漁獲魚種は、スケトウダラ、ニギス、ズワイガニ、マダイ、カレイ類、アンコウ、ヒラメなどとなっている。

## 2. 青年部の組織と活動内容

筒石漁協青年部は、漁業協同組合の発展と漁村文化の進展を図り、漁業後継者として自らの研鑽のための知識の向上と青年相互の質的向上及び親睦を図ることを目的に、昭和52年に設立された。

現在は17名の会員で構成されており、研究会とも協力し「栽培漁業」や「資源管理型漁業」などの課題について取り組んできたが、ここ数年これらの課題に加え、地域の活性化と知名度アップを目指した数々のイベントを開催してきた。

## 3. 課題選定の理由

漁業者の高齢化や後継者不足が大きな問題となっているなか、地域の活性化と知名度アップを目指し鮮魚直売や地元小学生に対する体験学習会を昨年引き続き企画した。

また、以前からより一層の知名度アップの活動を模索していたなか、「大きな壁画のある港」というイメージで多くの地域の人達から知ってもらおうとの発想から、今年度は、漁海岸壁の壁面作りの活動が生まれた。

## 4. 活動の経過と成果

まず最初に、多くの人達に新鮮な魚を提供するために3年前より始めた鮮魚の直売を5月4日に行った。当初は青年部単独で地元の人達だけを対象とする小規模なものであったが、3年経過した現在では、青年部はもちろん、研究会、婦人部、組合役員を含めた組合全体で取り組むようになった。また、年々宣伝を広範囲に行うようになった結果、買いに来てくれるお客さんも、近隣の市町村からも集まるようになり、活発な鮮魚販売となった。

その結果、我々もお客さんの反響を見て、鮮魚の価値観を再認識できる良い刺激の場となっている。資源が減少しつつある今、獲る立場の我々も鮮魚の販売方法にももっと

知識を持ち、前向きに対処していきたいと思っている。

次に後継者対策の一環として毎年行っている、地元磯部小学校の全校児童を対象とした地曳網で生きた漁業というものの体験会を5月21日に行った。

この活動は、自分たちの力で魚を獲る喜びを知り、海に興味をもってもらいたいとの願いから始めたものである。

昨年度、我々は「子供達は海や我々漁師をどんなふうに見ているのだろうか」との考えから、3年生から6年生までの児童に青年部員で考えたいくつかの項目でアンケート調査を行った。その結果、魚や海は好きと答えた児童は約8割程いたにもかかわらず、「漁師になりたいと思いますか」という問いには、100%と言っても良いほど「なりたくない」という残念な答えが返ってきた。その理由として、「きつい、きたない」など、俗にいう「3K」を挙げた児童が余りにも多いのに目を疑うほどで、小学生の段階ですでにその様に思っているのかと驚き、後継者不足の深刻さを実感した。

今後どのように接していけば良いのか迷いつつ、今年度は、地曳網終了後魚のさばき方を教えたり、獲れた魚のほかにあらかじめ準備しておいたエビなどを材料にパーベキューをして児童たちと親しんだ。数日後、児童の代表からもらった手紙には「地曳網を毎年楽しみにしている」との内容のほか「将来、漁師さんになってみたいです」との内容も数人いて、このような児童が少しずつ増えていくように、今後も長期にわたって、子供達の声を敏感に受けとめ、いろいろ工夫し取り組んでいきたいと思う。

そして、夏には今年的一大活動として筒石漁港岸壁の壁画作りに取り組んだ。この活動は、昨年からの計画で、糸魚川土木事務所、町、組合の方に理解を求め、援助して貰えるようになった。当初は、東防波堤の高さ6メートル、長さ300メートルの範囲に描く予定であったが、工事の関係や、初めての試みということもあり、あまりにも大きすぎるのではないかと理由から、今回は、春にできた西側の埋め立て地の壁の高さ約4メートル、長さ約70メートルの範囲に描くことにした。

計画は立てたものの、まるでその方面の知識がなく、すべて手探りの状態から始まり、まずは協力者を探し、上越教育大学の方に依頼したところ、美術専攻の大学1年生11名と大学院生2名、先生2名の15名が参加し、協力してくれることになった。

まずは、元絵作りから始まり、それは、1年生11名がそれぞれ考案してくれることになった。青年部の方から、「子供から大人までの目を楽しませ、親しみのある絵が希望である」と伝えた後、でき上がった絵を学生と青年部員とで再検討して、海に関係のある魚や船、竜宮城などのユーモアのある11種類の元絵ができ上がった。

学生たちと作業に取り掛かる日を8月24日から決め、その準備段階として、8月10日には、糸魚川土木事務所に依頼して足場を組んでもらい、17日の早朝から青年部員で下塗りをし、終了後直ちに中塗りをするという作業を行った。

24日には早朝から青年部員が集まり、大学生が到着以前に、絵の輪郭を取るための縦、横50センチ間隔に線を引き、全面を方眼状にする作業に取り組み、約1時間程で完了させた。大学生が到着後の作業においては、大学生1人につき青年部員1人ないし2人を助手としてそれぞれパートナーとなって作業にあたった。元絵を元に鉛筆で下書きをする事から始まり、休憩時間等を利用して、全員で再検討した後、かき終えた組から、水性塗料を使用した色付けへと進んだ。

面積の大きなコンクリート面に描くことは、青年部員、大学生ともに初体験ということもあってか、全員が興味を示し、積極的に取り組み、それぞれのパートナーは意気の合った雰囲気であり、全体では1つの大きな輪となって、完成に向けて作業が進んだ。

休漁日には、漁協婦人部から昼食を準備してもらい、また、出漁時には足場があるため通行に支障を来すが、配慮してもらうなど、地域の人達からも少なからず協力を得て作業は進んだ。

青年部員は、翌日の出漁準備ができ次第、パートナーの元に駆け付け作業にあたる中、見る見るうちに色彩豊かに壁面が変わっていった。その結果、当初完成まで1週間位は掛かるのではないかと考えていたのですが、皆予想以上の手早さで作業を進め、3日間という短期間で仕上げることができた。全員が成し遂げた満足感と、自分たちの力で描き上げた絵が残る喜びを一人一人分かち合う事ができた。

31日には部員だけで、上塗りをし、この活動はすべて完了した。壁画を描く作業を通じて、青年部員の今まで以上の積極的な行動と結果の力強さが強く印象に残っている。また、壁画の完成後、漁業関係者や地域の人達から、港全体が明るくなったとの声を聞くことができ、他の地域からも壁画を観に来る人の姿が見られるようになった。

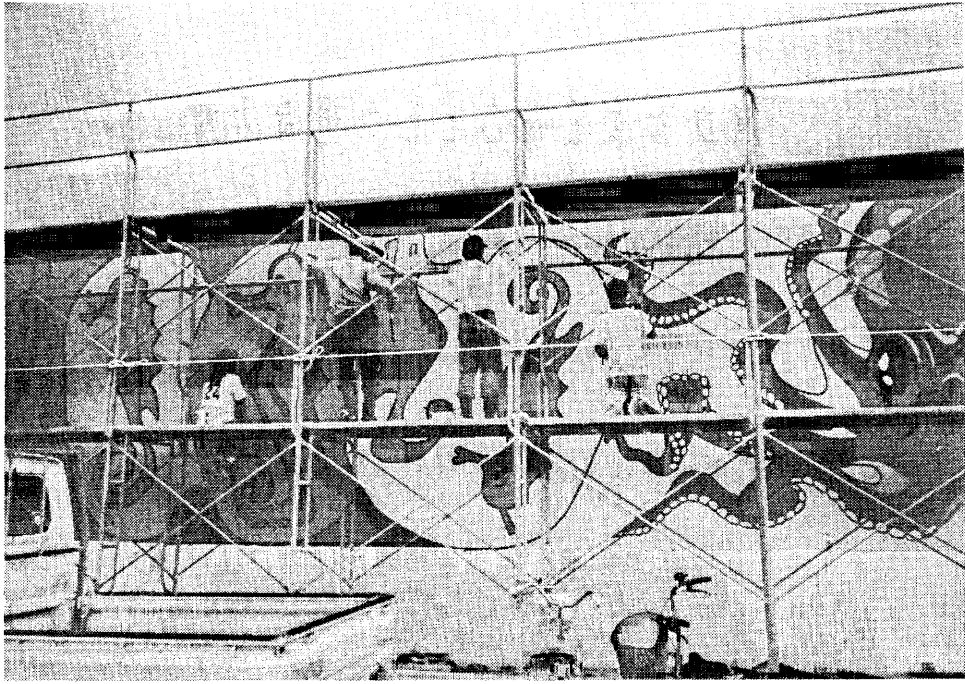
## 5. 波及効果

地曳網に関して、山間部にある松代町の奴奈川小学校からも、児童たちに地曳網を体験させてほしいと依頼があり、8月10日に児童数が少ないため父兄共々参加して、地元磯部小学校と同様の内容で海の関心を深めてもらった。この活動が、地元だけでなく他校にも届くほどの大きな動きとなり、より多くの子供達に地曳網を通じて、海の魅力、漁業への理解を深めてもらったことは大きな成果ともいえ、これが担い手の育成に役立つようになればと期待している。

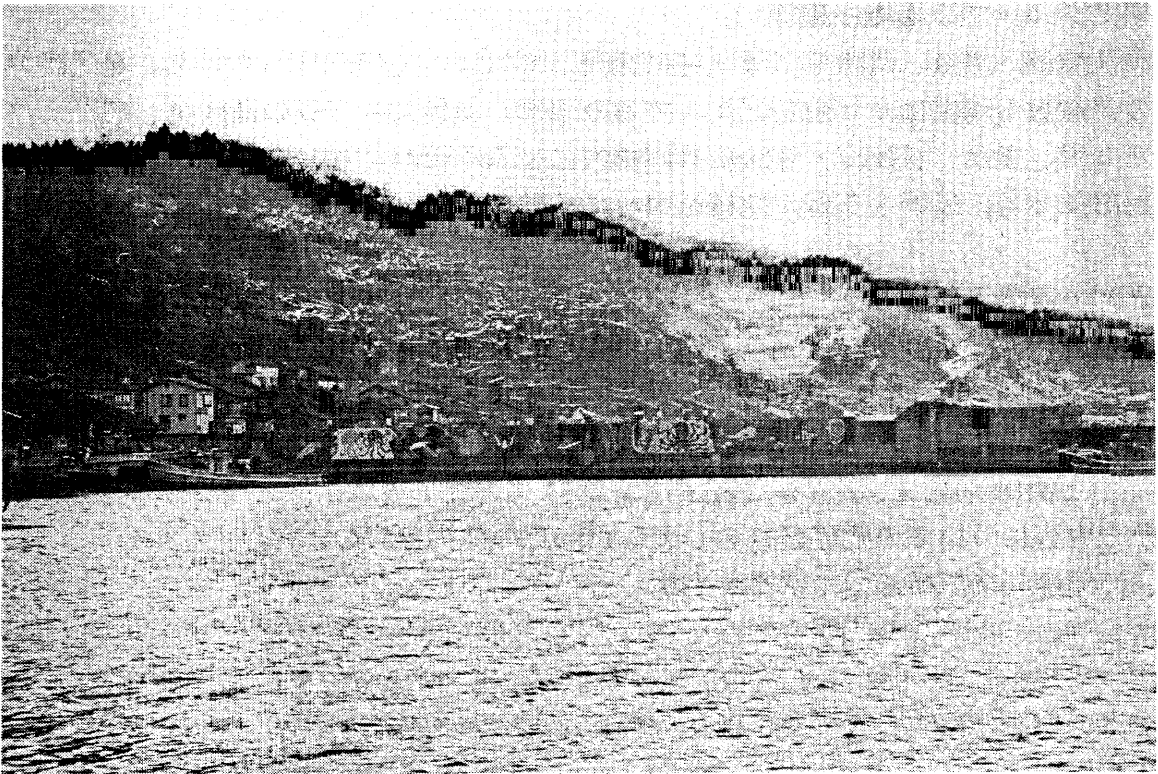
## 6. 今後の方針

私達筒石漁協青年部は、県内外の人達に筒石という漁村を知ってもらうためにも、漁港を中心とした明るい地域作りに取り組み、筒石を強くアピールしていきたいと思う。将来、新たな壁画を描くことができることになったら、今度は地元小学生に何らかの形で参加してもらうことなどを考えている。それが、担い手の育成に繋がって行くのではないかと思う。

そして、現在の筒石の狭い土地の中で地域活性化や担い手対策の活動をどの様に行っていくかなどの問題もあるが、そのためにも青年部の結集した力を源に、知名度アップと地域活性化のため、今までの発想にとらわれない活動を継続していき、漁港を中心とした明るい漁村作りに取り組んでいきたいと思う。



壁画製作状況



完成壁画